

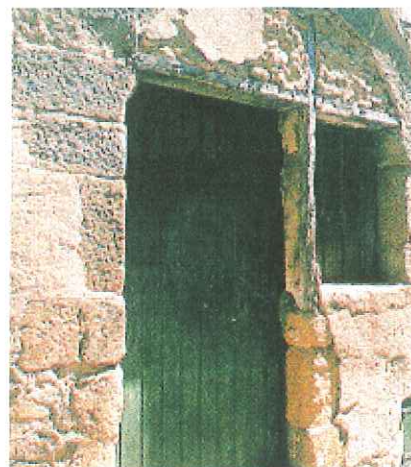
Ramatuelle



プロヴァンス人とモール人の土地ラマチュエルは昔からずっと変わらず、しかも活気にあふれるところです。そこには素晴らしいワインができるぶどう畑、コルク樫の丘、樹齢百年のかさ松の林が広がっています。5キロにわたって続くパンプロヌ海岸は、人の手が入っていない自然のままのワイルドな魅力の海岸線に、砂はさらさらのパウダー・サンド。海沿いの小道を歩けば入り組んだクリークや美しい海の景色が次々に現れます。サラセン人の村には発見の楽しみがあり、伝統工芸品のお店や郷土料理のレストランなど、きれいなもの、美味しいものが一杯。



ラマチュエルの歴史



時に削られた家々の石壁の陰に過ぎし日の秘密が隠れているような、そんな村・・・

ラマチュエルは急傾斜の丘の上であり、大昔は、ガリア人（フランス人の祖先）の集落だった。ラマチュエルの人々は歴史の陰でひっそりと暮してきたが、それでも三つの大きな出来事があった。

西暦892年のサラセン人による占領

20人ほどのサラセン人の海賊がグリュモー湾を小舟で渡ってスペインから侵入した。その後続々とやって来たサラセン人達はガルド・フレネを拠点にして近隣の村々を荒らし回った。ラマチュエル村も彼らに占領され、村人は財産を奪われた。地下蔵や牢獄には、サラセン人占拠の跡が残っている。972年にプロヴァンス伯ギョームが彼らの砦を急襲し、この地方を解放した。この動乱の時期を経て、統治権はマルセーユ子爵に移り、子爵は行政・司法の責任者となった。村の高い城壁は、この時期に建設された。キリスト教会の運営はサン・ヴィクトワール・レ・マルセーユに委ねられ、そのため、ぶどう園と小作地が寄進された（1056年）。フランス大革命まで、いくつかの貴族の家系が城主としてこの地方を治めた。

1592年 村の破壊

多数のカトリック信者が「同盟」を結んで、プロテスタントのアンリ4世と対立した。コルシカ人の守備隊に守られていたラマチュエルは同盟軍に占領された。村はこの占領でほぼ壊滅状態になり、1600年代の初めになってやっと徐々に再建されていった。この間の出来事は村の教会の扉や門の石に刻み込まれている。400年近くも村の歴史を見続けている榆の木は、この時期に植えられたものと思われる。

第二次世界大戦（1939－1946）

村はイタリア軍、ついでドイツ軍に占領された。アルジェーパリ間に秘密工作員を運んだ潜水艦カサビアンカの乗組員の中には、ラマチュエル出身のレジスタンスもいた。村の入り口には、それを記念する碑が立っている。パンプロンヌ海岸は、1944年8月15日、連合軍上陸の舞台となった。